



政策分野 改め本日のフォローをいくつか

林 和弘

文部科学省 科学技術・学術政策研究所
(NISTEP)

科学技術予測センター

2017年6月26日(月)

RDUF公開シンポジウム

khayashi@nistep.go.jp

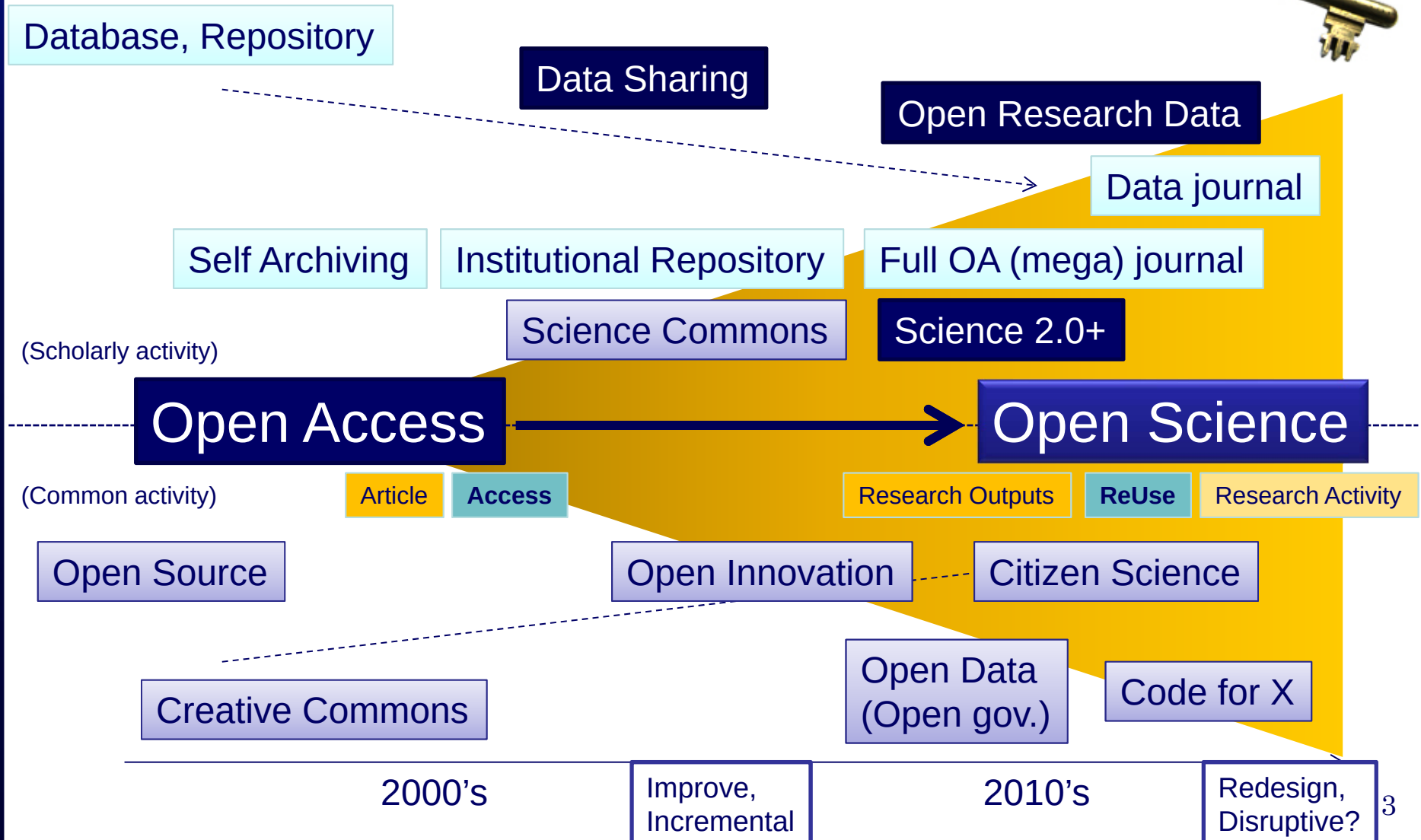
～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～

2015年3月30日

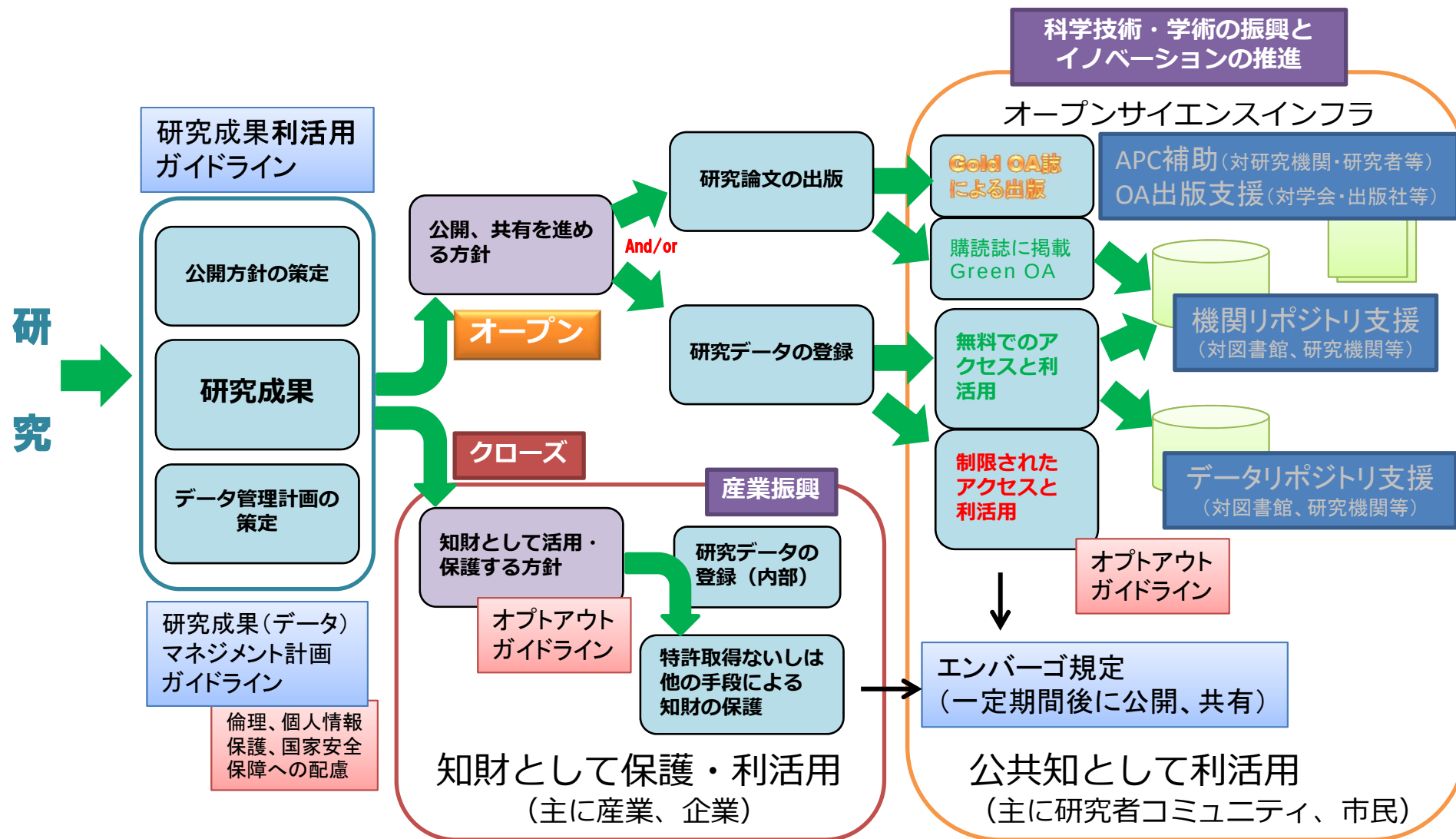
国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会

Open Access to Open Data and Open Science

Overview example



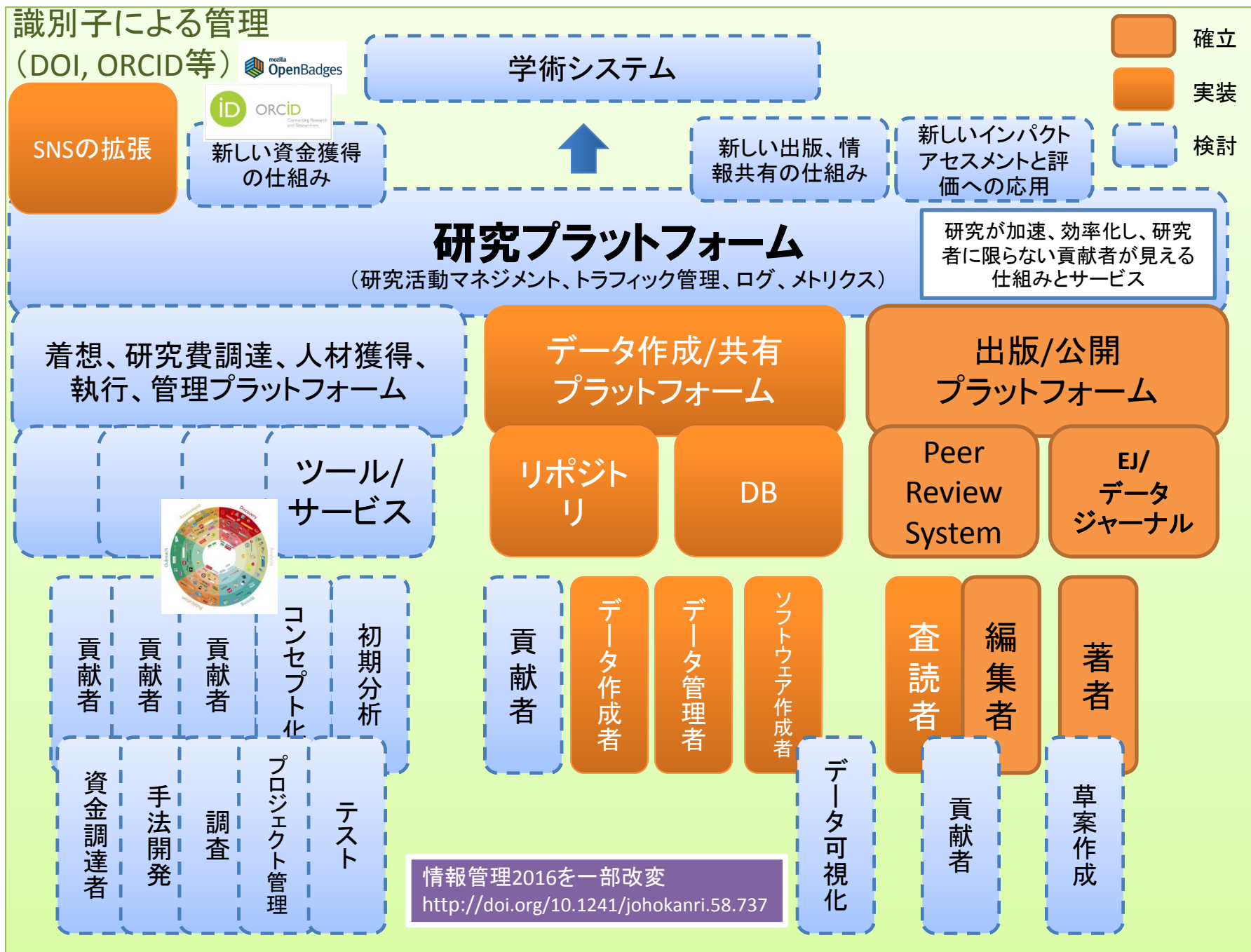
研究成果の利活用、オープンサイエンスの推進に係る概念図



下記図表を参考に和訳、改変

Guidelines on Open Access to Scientific Publications and Research Data in Horizon 2020 Version 1.0 11 December 2013 p.4

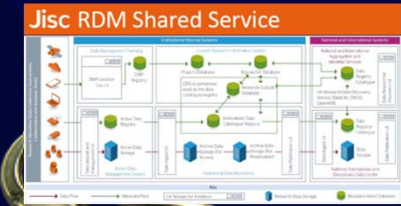
http://ec.europa.eu/research/participants/data/ref/h2020/grants_manual/hi/oa_pilot/h2020-hi-oa-pilot-guide_en.pdf



より包括的、トレーサブルに把握

より上流、多様な貢献者の捕捉

欧州サイエンスクラウド(EOSC)



- ・ 既存の研究データ基盤構築の施策との連携調整: EUDAT(HPCI)、GÉANT[NW]、LIBER[Library]、OpenAIRE[Repository]、EGI[Data Center]等
 - 分野的・地理的・施策上別箇に整備されたシステムを結合
 - 欧州全体の研究データ利活用基盤→世界的な共通基盤(“Global Open Science Cloud”)へ?
 - NIIのOpenAIRE連携

村山、林、欧州オープンサイエンスクラウドに見る
オープンサイエンス及び研究データ基盤政策の展望

STI Horizon, Vol. 2, No. 3, p. 49-54.

<http://doi.org/10.15108/stih.00044>

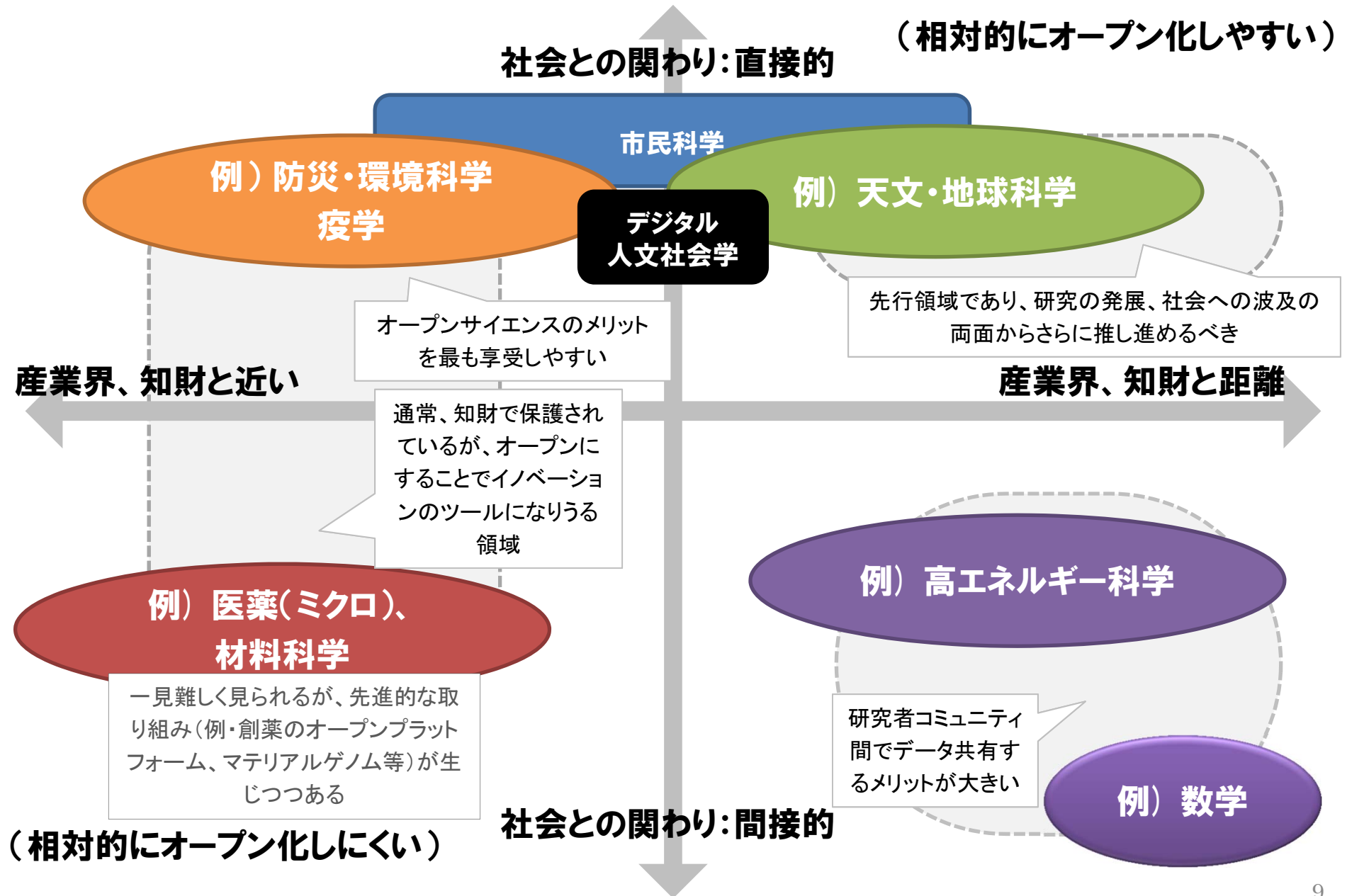
オープンサイエンスの推進について

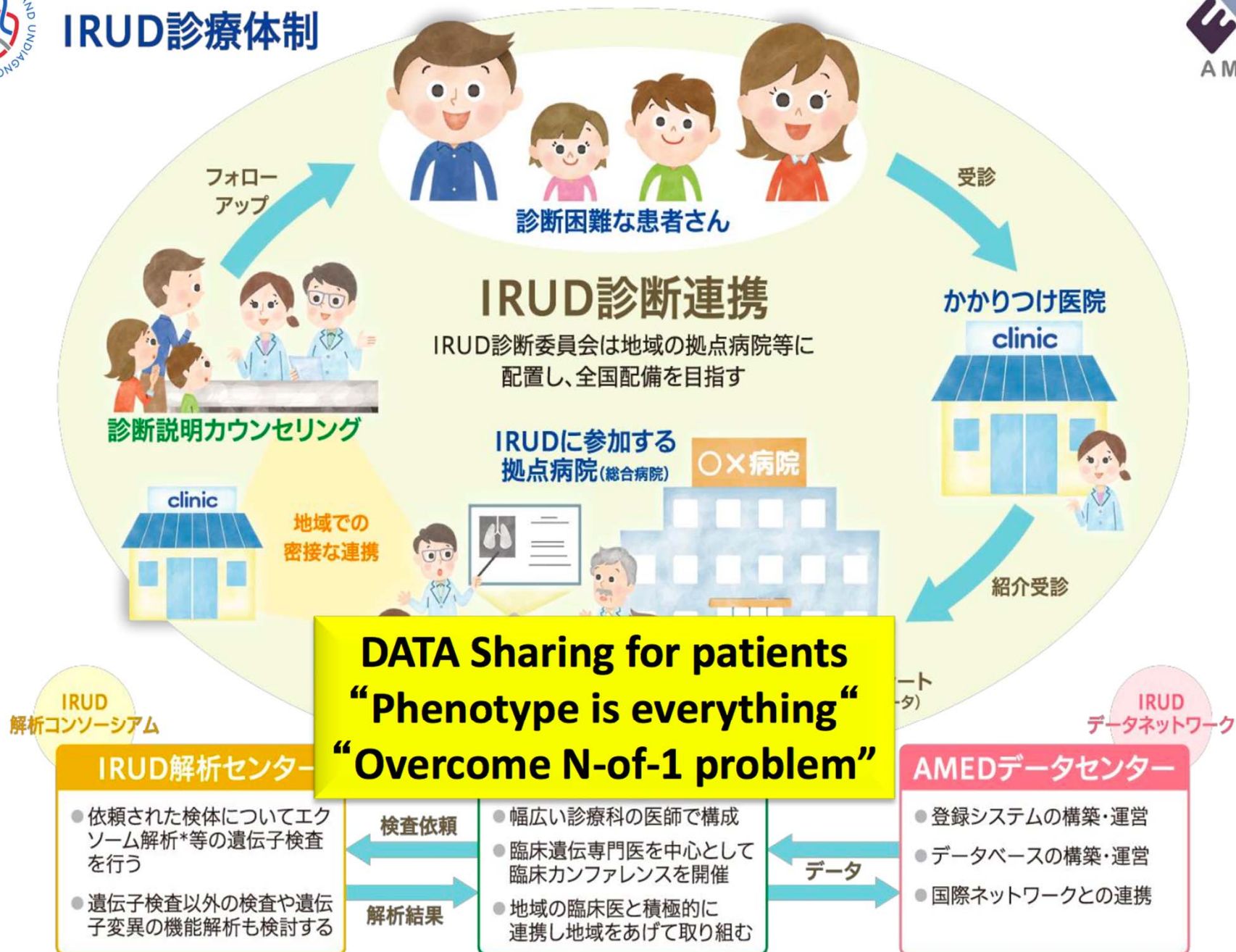
- 1) 競争的研究費への導入検討(データ共有方針、DMP)
- 2-1) 研究データの保管に係る基盤整備(データインフラ)
- 2-2) 研究データの散逸等の防止や利活用について(識別子)
- 2-3) データ共有/公開に対する評価の取組について(評価指針)
- 3) 分野の特性に応じたデータの公開/非公開のあり方の検討(オープンクローズ戦略)
- 4) 人材の育成及び確保(専門家育成)

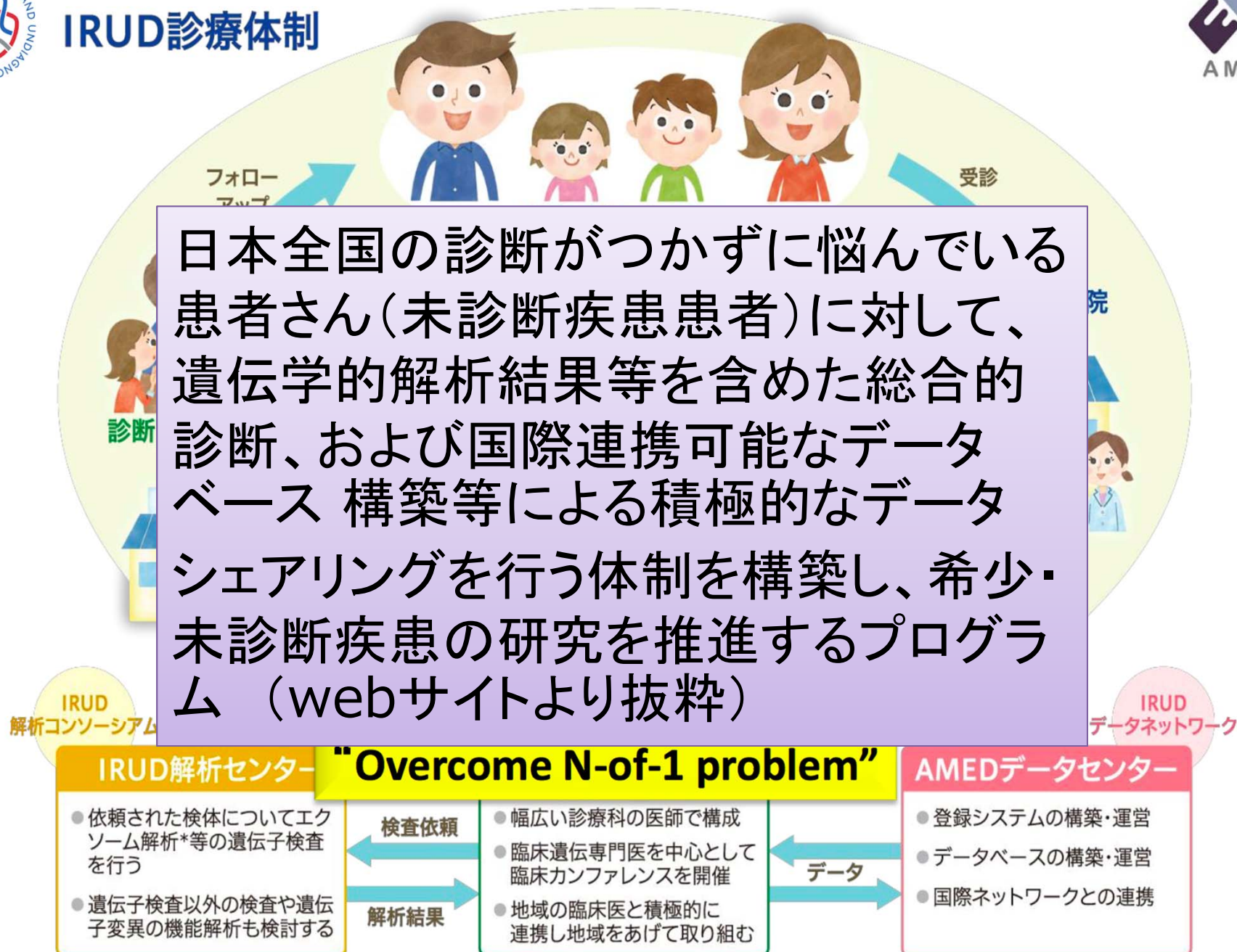
文部科学省としての基本方針は示されている

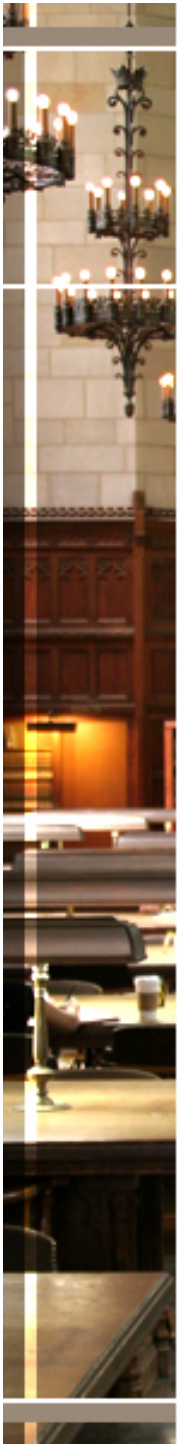
- 1 - 内閣府の方針の再確認
- 2 - 研究成果の利活用促進を前提としたオープン化
- 2
 - ・すでにオープンサイエンスの文脈を含んだ施策、活動の整理
 - ・既存の施策とのひも付けとマッピング
- 3 - オープンサイエンスの文脈で拡充、改善
- 4
 - ・研究データ基盤の整備など新しい試みもある
- 人材等不透明な課題も残ってはいる

オープンサイエンスに係る分野別マッピング例



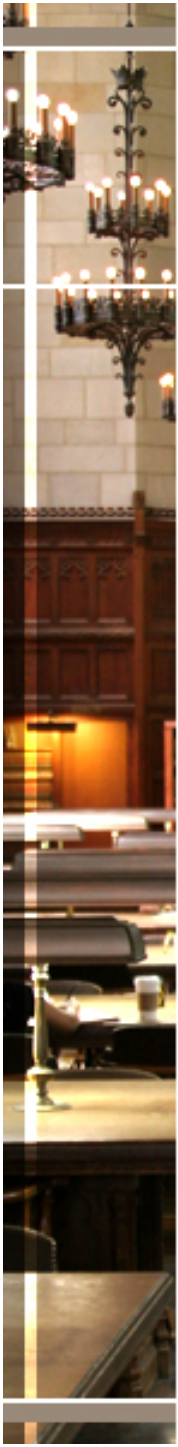






安心・安全なデータ共有文化作り

- ・ 簡便で信頼できる蓄積
 - 研究データ基盤整備（活動ログの取得→貢献の把握）
 - 込山さんにエール
- ・ 簡便な利用とユースケース作り
 - サービスデザイン
 - ・ このサービスがないと研究ができない仕掛け
 - ・ データサイエンティストの要件定義にも繋がる
 - 利用に関するライセンス（例えオープンでも）
 - マシンリーダブル（機械がユーザー）



安心・安全なデータ共有文化作り

- ・ **健全な評価と報酬（Reward）**
 - 当面はデータ引用文化の醸成と評価への展開
- ・ **文化醸成のためのステークホルダーの対話の繰り返し**
 - EOSCパイロットプロジェクト
 - 英国Concordat
 - 米国研究助成機関会合



ご清聴ありがとうございました

Twitter : hayashi_kaz

Facebook, LinkedIn, Mendeley

Kazuhiro Hayashi (with a picture)